

No	提 案 名	提案団体名	
		代表者氏名	所 属
5	まち歩きアプリ de 宮さんぽ♪ ～宇都宮市の魅力発見！！けんちく ver.～	建築環境研究室	
		田代 翼	宇都宮大学大学院 工学研究科
		指導教官 氏 名	横尾 昇剛

1 提案の要旨

宇都宮市で毎年行われている「ふるさと宮まつり」や「うつのみや花火大会」は、市民なら誰もが知っているイベントである。しかし宇都宮市には「宇都宮ジャズブルージング」、「宇都宮カクテルナイト」のようなご当地イベント、またスポーツイベントや文化イベントが多く開催されており、これらは宇都宮市の活性化に繋がると期待されるが、このようなイベント情報は市民の耳にあまり届いていないかのように思われる。また、宇都宮市主催のイベントの他にも店や個人が開催しているイベントもあり、これらについて大勢の市民に伝えることは非常に難しい。これらのイベント情報以外にも、私たちの周りにはあらゆる情報で溢れている。情報と言っても生活の中で自然と耳に入ってくる情報だけではなく、あまり知られていないだけで魅力的な情報も多く存在すると予想される。また人々は1つの情報を見つけるために例えばインターネットで検索するが、自分の調べたい情報を見つけるためにホームページの奥へと進まなければならないこともよくある。さらに、情報によってインターネットや雑誌、テレビなど、情報を入手する手段も様々であり、使い分けなければならない。人々が情報を入手する手段は時代と共に変化してきたが、情報化社会が進みゆく現代、今の時代に適した情報発信の手段が必要である。

また、情報発信を住民参加の観点から見ると、現状では市民の持つ情報を上手く発信できていないかのように思われる。市にとっても若者の意見を聞くことのできる機会は少ないのではないだろうか。若者は現状ではあまりまちづくりへの参加に積極的でないかもしれないが、若者が持つ情報を上手く発信することのできるシステムを考えれば、まちの活性化にも繋がり、そしてまちづくりをより身近に感じ、市民が簡単に参加できるようになるだろう。

以上から、今後需要が拡大し更に普及していくと考えられるスマートフォンに注目し、宇都宮市に関するあらゆる情報を1つにまとめることで市民が簡単に情報を入手することができるスマートフォン用アプリケーションの開発を提案する。これは（後述で詳しく説明するが）、市が発信する情報だけでなく市民が持つ情報まで含み、現状では市民に対して上手く発信できていないような情報も伝えることができる。市民が持つ情報を発信する方法としては各分野に詳しい市民や団体が情報を提供し、それをアプリケーション内に取り入れていくといったシステムを考えた。これを「地域レポーター制度」と称して、本提案では様々な分野の中から建築分野に焦点を当て実際に私たち建築学生がパイロットモデルを作成する。

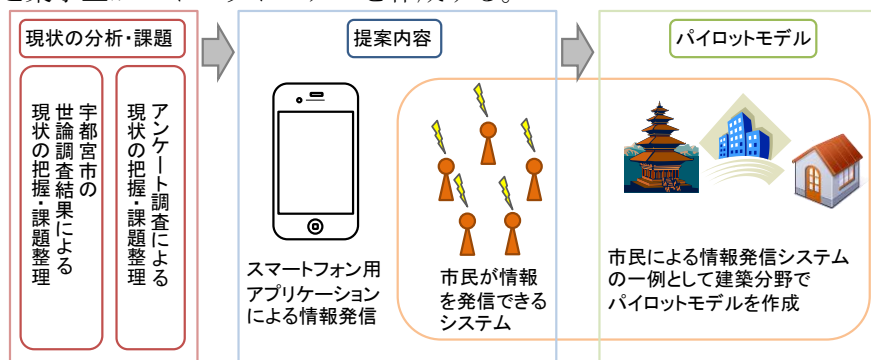


図1 提案フロー

2 提案の目標

宇都宮市の情報を1つにまとめたスマートフォン用アプリケーションの開発、住民参加型の情報発信方法を提案することにより、「情報に強い都市宇都宮」を目指す。これにより市民が現状ではなかなか入手できなかったような情報まで簡単に入手できるようになり、市民がまちづくりに積極的に参加できるような入り口を作り出すことを目的とする。

最終的な目標としては、市だけでは発信できないような宇都宮市の魅力を見つけ出し、これらを市外へと発信することで宇都宮市の活性化を図る。

この提案により、宇都宮市が市民と共に「情報に強い都市」へ一歩でも近づくことを期待する。

3 現状の分析と課題

3.1 宇都宮市の世論調査結果による現状の分析と課題

宇都宮市では市民が市政や生活についてどのように考え、また、何を望んでいるのかを統計的に把握し、市の施策に役立てるための基礎資料を作成することを目的とし、昭和43年以降、世論調査を毎年行っている。この調査結果をもとに、宇都宮市の現状を分析していく。

（イ）インターネットの利用状況

第42回世論調査によると、宇都宮市民がインターネットを利用するときの環境としては「家庭にあるFTTHに接続されたパソコン」が2割台半ば、「家庭にあるADSLやCATVに接続されたパソコン」が約2割であるが、一方で「携帯電話」は3割近くで最も高い結果となっている。インターネットは今や最も身近な情報入手手段となり、その中でも携帯電話によるインターネットは市民にとって簡単に情報を入手できる手段として認識されている結果であるだろう。また、この結果より人々にとって携帯電話は触れる機会の多い機器であるため、今後携帯電話を利用した分かりやすい情報発信の手段を考えていくことが必要となるのではないだろうか。

（ロ）広報媒体の活用状況

第44回世論調査によると、「広報うつのみや」の入手方法としては「新聞折込で自宅に届いている」が8割を超えている。この結果より新聞を購読している市民に対して、市の情報を発信する手段としては最適であるだろう。しかし、この調査の対象は満20歳以上であるため新聞を購読していない且つ一人暮らしをしている若者に対しての最適な情報発信手段とはならないかもしれない。（イ）のインターネットの結果を踏まえた上でも若者に対しても伝えやすい情報発信方法を考えることも重要であるだろう。また、「広報うつのみや」で充実してほしい記事としては、「身近な暮らしに関すること」が3割半ばを超え最も高い。しかし紙媒体である「広報うつのみや」だけでは、身近な暮らしに関する情報を掲載することは難しいかもしれない。

（ハ）市民協働のまちづくり

まちづくりに関して現在、取り組んでいる活動としては「特になし」が7割を超えている。しかし、まちづくり活動に参加するために必要な条件を見ると「参加しやすい時間や場所であること」が約6割で最も多いため、市民はまちづくりに対して興味がないわけではない。敷居が高いと思われがちな市民協働のまちづくりではなく、まちづくりに市民、特に若者が積極的に参加できるような環境を作り出すことが求められていることがわかる。また「特に専門知識がなくても参加できること」、「自らの専門知識や技術が生かせること」の項目も多く、市民のできる範囲でのまちづくりに参加できる機会を設けることが課題であるだろう。

3.2 アンケート調査による現状の分析と課題

宇都宮市の世論調査の結果を踏まえた上で、宇都宮大学の学生を対象にアンケート調査を行った。当大学は栃木県外出身の学生が多いため宇都宮市に住んでみてからの印象を聞きやすく、また一人暮らしをする若者の考えを知るために調査対象として選定した。また、アンケートは 120 人の学生に回答して頂いた。主なアンケート内容としては、今回提案するスマートフォン用アプリケーションの需要、スマートフォンの所有率、現状の宇都宮市に関する情報の入手手段、地域レポーター制度に対する印象等である。このアンケート結果をもとに現状の分析を行っていく。

3.2.1 所有携帯電話機器と SNS 利用

(イ) 市内大学生のスマートフォン所有の現状

図 2 より大学生の携帯電話所有率は全体で 99%であり、今や携帯電話は若者のほぼ全員が所持していると言える。その中でもスマートフォンの所有率は約 7 割であり、今ではフィーチャーフォンの所有率も決して少なくはないが今後更にスマートフォンは普及していくことが予想される。この結果より、使用することの多いスマートフォンを利用した情報発信方法を考える。

(ロ) 市内大学生の SNS 利用の現状

アンケート対象者の Facebook、Twitter、mixi の登録者を調査した。特に Facebook の登録者は約 6 割で最も多い（図 3）。若者が携帯電話機器の利用目的の中でも SNS は少なくなく、市民が情報を共有する手段として利用することもできるのではないだろうか。

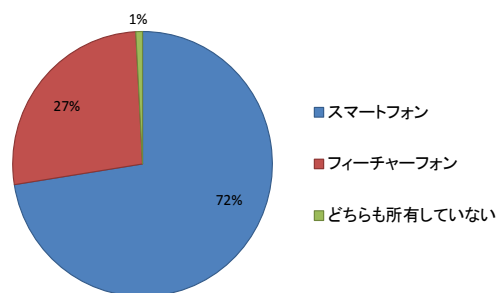


図 2 市内大学生のスマートフォン所有率

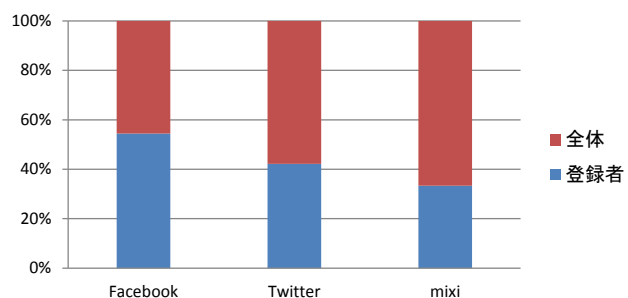


図 3 市内大学生の SNS 利用率

3.2.2 情報入手手段

若者が情報を入手する際、どのような手段を利用しているのかを調査した（表 1）。調査項目以外にも情報には様々な種類があるが、全 12 項目のうち 7 項目の情報入手手段はインターネットで最も多い結果となった。また、それ以外の項目ではインターネットは最も多いわけではないが、情報入手手段としては多い結果を示していることがわかる。この結果より情報を入手する際、インターネットを利用することが多く、その都度インターネットでホームページを検索していることがわかる。しかし、各項目において情報入手手段よりも「入手しない・できない」が最も多くなっているものが 5 項目もある。新聞を購読しておらず、自分の興味のない情報については入手しない若者に対しての情報発信が上手くできていないことが現状の課題として考えられる。例えば、「スポーツ」や「文化・芸術」に関連するイベントは宇都宮市内でも多く開催されている。宇都宮の活性化のために若者のイベント参加は、重要であるためこうした情報を広めていく手段を考えることが必要であるだろう。

表 1 情報入手手段（％）

	知人から	広告・ポスター	インターネット	広報 うつのみや	新聞	テレビ	SNS	雑誌	その他	入手しない・できない
災害情報	1.6	0.8	35.2	1.6	0.0	50.0	4.1	0.0	3.3	3.3
市内の最新ニュース	9.1	7.4	17.4	4.1	7.4	18.2	5.8	0.0	3.3	27.3
観光イベント情報	10.7	32.2	24.0	5.8	0.8	5.0	3.3	0.0	1.7	16.5
交通情報	2.5	5.8	63.6	3.3	0.8	0.8	1.7	0.0	14.0	7.4
観光案内	6.7	14.2	34.2	3.3	0.8	2.5	0.0	9.2	2.5	26.7
娯楽	28.9	5.8	45.5	0.8	0.0	1.7	0.8	5.8	2.5	8.3
スポーツ	11.7	15.0	21.7	2.5	0.8	5.8	0.0	0.8	2.5	39.2
服飾	23.1	10.7	22.3	0.8	0.0	1.7	0.8	9.9	5.0	25.6
飲食	23.8	9.0	36.9	4.1	0.0	3.3	0.8	9.0	4.1	9.0
文化・芸術	7.3	32.5	14.6	3.3	1.6	2.4	1.6	0.8	1.6	34.1
雇用・募集	1.7	18.2	33.1	5.8	1.7	0.8	0.0	19.0	7.4	12.4
教育関係	1.5	6.9	26.7	3.8	3.8	3.8	0.8	3.1	6.9	42.7

※太字は最も多い入手手段

3.2.3 宇都宮市のスマートフォン用アプリケーションの需要

本提案にあたり宇都宮市の情報を発信するためのスマートフォン用アプリケーションが無料で提供されたとしたら、インストールし利用するかどうかを調査したところ7割近くが「利用する」と回答している（図4）。本提案では情報に強い宇都宮を目指し、広報うつのみや等現在の情報発信手段と並ぶ役割を担うものとして提案する。

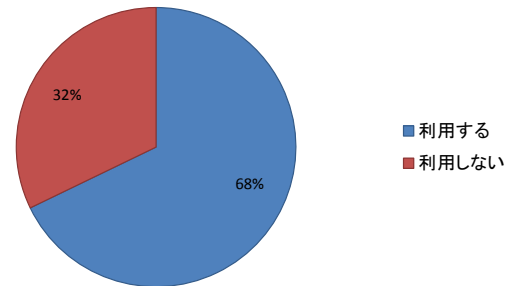


図4 アプリケーションの需要

4 施策事業の提案

4.1 宇都宮市の情報を発信するスマートフォン用アプリケーション

現代において、携帯電話によるインターネット機能を用いて情報を入手している市民は多いと考えられる。しかし情報と言ってもその種類は多く、情報ごとに市のホームページを見たり店のホームページを見たりと、その都度違ったサイトから情報を入手しなくてはならない。また店や個人が主催するイベントだけでなく、宇都宮市が主催するイベントにおいても市内の若者から「知らなかった。」と聞くことも少なくはない。さらにスマートフォンで情報を入手する際、例えばバスの時刻を確認するときスマートフォンでPDF化された時刻表を表示することができなかったり、まだスマートフォン用ホームページを作成しておらずパソコン用のホームページから情報を探したりと、宇都宮市では普及してきているスマートフォンに対



図5 まち歩きアプリを開く

応した情報発信環境が整っていないのが現状である。そこでワンタッチで簡単に開くことのできるスマートフォン用アプリケーション「まち歩きアプリ」の開発を提案する。このアプリケーションによる新しい情報発信方法により、今まで上手く広められていなかった情報を市民、特に若者の耳にまで届かせることが可能になると考えられる。

現在、宇都宮市に関するスマートフォン用アプリケーションが全くないわけではない。登録店までナビゲーションする「うつのみやマップ」、餃子に焦点を当てた「宇都宮餃子ナビ」、栃木県内の路線バス3社の時刻表を検索する「とちぎのバス」が挙げられる。どのアプリケーションも魅力的で実際に使用してみると便利だが、情報が偏っていて利用者が限られてしまい、更に市民が情報を発信できる機能を持つものではなく、またリアルタイムでイベント等の情報を発信できるアプリケーションはまだ開発されていない。そこで市民に情報を発信する手段としてのアプリケーションが本提案である。現在提供されているアプリケーションと全く別のものにするのではなく、各開発者の協力を得て1つのアプリケーションにまとめることで、更に充実した情報を簡単に発信できるようになることが期待される。

4.2 まち歩きアプリの内容

(イ) アプリケーショントップページのデザイン

アプリケーションを開いたとき、初めに表示されるトップページによって市民の受ける印象は変わってくる。人によって興味のある情報は異なり、その需要に応えた上で宇都宮市の情報を伝えることのできるようなトップページを考えることは重要であろう。



図6 「まち歩きアプリ」トップページ

(ロ) GPS 機能の利用

スマートフォンの GPS 機能及びマップ機能を利用することにより利用者が今いる場所に近い観光地や飲食店等を簡単に探すことができ、そこまで利用者をナビゲーションする。また、近くのバス停の時刻表を素早く表示する機能も考えている。良く利用するバス停に関しては【MY PAGE】に保存することもでき、いつでも確認することができる。



図 7 GPS 機能を利用したイメージ

(ハ) Facebook との連動

世界的に広く普及している Facebook は宇都宮市民の利用率も高いと考えられる。宇都宮市の「まち歩きアプリ」を Facebook と連動させることでより幅広い情報を市民に発信することができる。例えば Facebook 上で宇都宮市内のお店や市民が更新した最新情報の中で「いいね！」の多い情報がアプリケーションのトップページに表示されれば、市民に簡単に伝えることができ、店側にとっても簡単に宣伝ができる手段ともなり得る。

(ニ) 電子掲示板機能

炎上を避けるためアカウント制とし、ログインすることで書き込むことのできる市民のためのコミュニケーションツール。イベント開催情報、交通情報等を利用者同士、リアルタイムで共有し合うことができる。(図 8)

(ホ) スタンプラリー機能

様々な分野においてスタンプラリー機能を設ける。例えば観光分野であればスマートフォンの GPS 機能により各観光地に行ったことを確認し、スタンプが貰える。飲食関係のうち餃子分野であれば餃子店のレジにスマートフォンをかざすことでスタンプが貰える。このようにしてスタンプラリーを完成させると市内で使用することのできる商品券、ミヤリー等の市のグッズと交換できるといった機能も考えている。これにより情報を楽しく入手することが期待される。(図 9)

(ヘ) 災害時の機能

昨年 3 月 11 日の東日本大震災以降、災害情報は市民にとって最も必要とされている情報の 1 つであるだろう。「まち歩きアプリ」では災害時にはトップページに災害情報を表示することを考えている。また災害時に限って電子掲示板のアカウントによる制限を解除し、宇都宮市の災害用伝言板のようなものになる。(図 10)

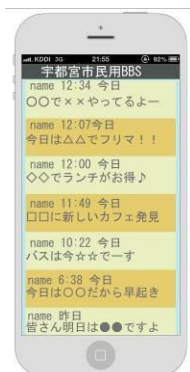


図 8 電子掲示板

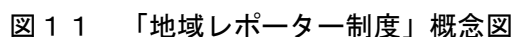


図 9 スタンプラリー



図 10 災害情報の表示

情報発信用のアプリケーションを開発するためには多くの市民の協力も必要となると考えられる。その情報源としては宇都宮市や事業者だけでなく市民、特に若者も含むものと考えている。現状ではまちづくり活動に参加したくても敷居が高いと感じてしまっている市民にとって、宇都宮市の活性化のために情報を提供することは、まちづくり活動に繋がるのではないだろうか。ここで提案する「地域レポーター制度」では各分野に詳しい事業者や学生、また興味のある市民が情報源を担当し、アプリケーションに提供するというシステムである。これにより情報を入手する側だけでなく発信する側としても市民が参加することができ、言わば「まちづくり活動参加への入り口」を市民に提供することができると考えている。また、「地域レポーター制度」を導入することで更に充実した情報を発信できると期待される。宇都宮市には魅力的なイベント、建築・観光地、飲食店等がたくさんあるが、各分野に興味のある人は知っていても一般的にはあまり知られていない情報、また建築物であれば建築学生は知っていても市民にはあまり知られていない建築物もいくつか存在する。実際に自分の目で見てみると、興味のなかった分野にも興味を持つようになるといったことも考えられる。このような様々な情報を市民にもっと知ってもらうことも「地域レポーター制度」の目的である。



地域レポーター制度では、建築学生である私たちが建築分野の情報源を担当する。今回は私たち宇都宮の建築学生が提供できる建築分野の情報を、パイロットモデルとして以下に記す。

(イ) 一般的には知られていない魅力的な建築物の紹介

図12の建築物は東京ガスによる宇都宮市の社用地を活用した「SUMIKA Project」で設計された建築物である。外観も面白く、建築に興味のない市民にとっても魅力的であるだろう。



【面白いディテールの建築物】

図13のように面白いディテールを持つ建築物は宇都宮市内にも溢れているが、市民は生活の中であまり気に留めないかもしれない。しかし建築学生独自の視点で市内の魅力的なディテールを探し出し、それを市民に発信するとまた違った視点から建築物を見ることができる。



図13 市内で見かける面白いディテール

(ロ) 建築巡りルート

「建築巡りルート」と称して、私たち建築学生が宇都宮市の魅力的な建築物や建造物を見て回るルート作成を行う。今回いくつかのルートを作成し、以下に示す。

【異邦人ルート】留学生の考える宇都宮探索鉄板コース



図14 異邦人ルート

【マニアックルート】自動車を交通手段とした宇都宮市の名建築巡りコース



図15 マニアックルート

【癒しルート】建築女子学生の考える癒し散歩コース



図 1 6 癒しルート

(ハ) 建築巡りツアー

建築を巡るルートを提供するだけでなく「建築巡りツアー」と称して、建築学生がルートに従って建築案内をするといった「まち歩きアプリ」の利用方法も考えている。これによって一般の市民は建築学生の説明を受けながら違った視点で建築を見ることができ、宇都宮市の新たな魅力を発見することができる。デモとして行った建築巡りツアーの様子を図 1 7 に示す。



図 1 7 建築巡りツアー（デモ）の様子

このように建築分野であればアプリケーションの「建築巡りルート」を利用して「建築巡りツアー」を開催するように、他の分野においてもアプリケーションを利用したイベントを開催することができると考えられる。市民が行うこれらのイベントが宇都宮市の活性化に直接繋がるのではないだろうか。

4.5 観光者に対して

宇都宮市外に住む観光者が、市のアプリケーションをインストールするとは考えにくい。そこで地域レポーター制度によって集まった情報を発信するためのホームページを作成することにより、より充実した情報を外部に発信することを提案する。

4.6 今後の課題

(イ) アプリケーションを利用しない市民に対して

「まち歩きアプリ」を利用しないと回答した市民から、その理由を質問したところ「インストールが面倒だから」等スマートフォン自体の問題もあるが、「宇都宮市にそこまでの愛着がないから」が最も多い結果となった(図18)。若者にずっと住みたいと思ってもらえるようなまちづくりを行っていくことが今後の課題として考えられる。

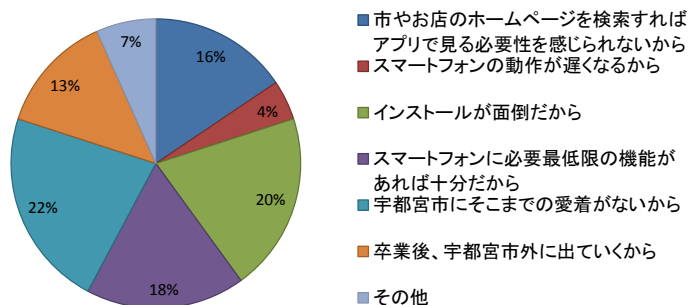


図18 まち歩きアプリを利用しない理由

(ロ) 地域レポーター制度の参加意欲

図19より地域レポーター制度の印象は8割が良い印象を持っていることがわかる。しかし実際に自分が参加するとなると、参加したいという若者は約4割まで落ちてしまっている(図20)。情報を提供しても利益のない市民に対しての施策も同時に考えていかねばならないだろう。

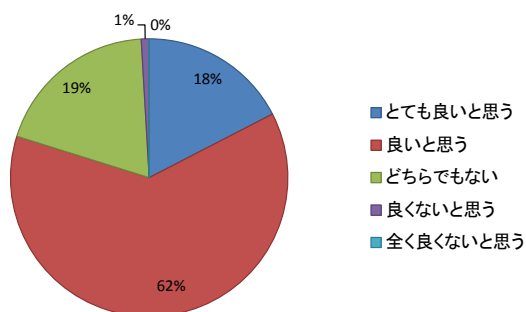


図19 地域レポーター制度の印象

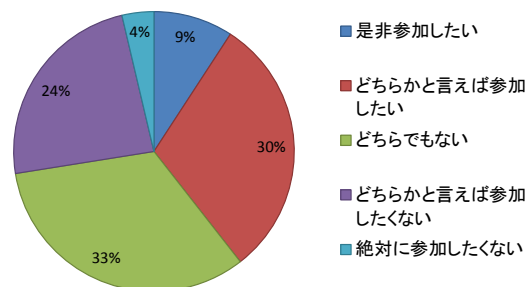


図20 地域レポーター制度の参加意欲

5 おわりに

本提案では、宇都宮市が「情報に強い都市」となるように、今の時代に適した情報発信のかたちとしてスマートフォン用アプリケーション「まち歩きアプリ」を提案した。また、情報源としては宇都宮市や事業者だけでなく、市民まで含むことを考えた「地域レポーター制度」も併せて提案した。携帯電話は今や最も身近な情報入手手段であるため、スマートフォンが普及してきている現在、市のアプリケーションを開発することにより今まで広く伝わっていなかった情報まで市民に伝えられるようになること、そしてまちづくり活動に対して積極的に参加できていなかった若者が、地域レポーター制度を導入することでまちづくり活動に参加することに対して積極的になっていくことを期待する。この提案によって「情報に強い都市」へ一歩近づくことを望む。

【参考 URL】

- ・宇都宮市 HP : <http://www.city.utsunomiya.tochigi.jp/>
- ・宇都宮観光コンベンション協会 HP : <http://www.utsunomiya-cvb.org/>
- ・東京ガス 建築環境デザインコンペティション : <http://kenchiku.tokyo-gas.co.jp/>